

2009～10年度 インターネット基盤整備基金資産運用計画(案)

標記の件、資産運用規程に基づき、運用資産(運用期間1年以上)である、インターネット基盤整備基金資産の運用について、下記の通り進めたく。

記

1. 2009年3月31日時点での基金資産の状況

基金資産総額	1,218,487,016円	*2008年度決算値(時価評価)
・2008年度運用収入	29,929,625円	(利回り実績 2.46%)
・2007年度運用収入	45,912,203円	(利回り実績 4.10%)
・2006年度運用収入	38,075,111円	(利回り実績 3.50%)
・2005年度運用収入	28,026,913円	(利回り実績 2.85%)
・2004年度運用収入	9,090,343円	(利回り実績 0.95% 2004年下期運用開始)

2. 運用計画策定の考え方

(1) 基本方針

- 今後新たにインターネット基盤整備基金資産に繰入れられる資金、及び、既に償還を迎えた、また今後償還を迎えるインターネット基盤整備基金資産につき、債券での運用を行い安定的な財政基盤の一助とすると共に効率的な資産管理を行う
- 社団法人の資産運用であることから、基本的にリスクを抑えた手堅い運用を志向する。
- その上で、資産運用規程の範囲内で、ある程度の運用収益を確保できるよう、柔軟かつ積極的な運用をバランスよく行う
- 仕組債のコール時の対応
仕組債がコールされた場合は、資産運用委員会にて、速やかに再投資の検討を行う
- 益出し後の資産は、当面銀行預金等の安全かつ流動的な方法で運用しつつ、資産運用委員会にて適切な投資の機会をうかがう
適切な再投資の機会がなければ、次年度運用計画修正時まで銀行預金等で運用する

(2) 運用収益目標について

- この運用より得られる収益は30年日本国債の利回り(2.1%程度)を当面のメルクマールとする
- 外国債券を含め複数の債券でのポートフォリオ運用を図る

(3) 運用の基本的な考え方

- 投資対象商品の分散、投資期間の分散、通貨の分散を図る
- その上で、投資毎の取得価額の確保を図る
- (仕組債を除き)最長投資期間を10年としたラダー運用を基本とする
- 投資対象通貨はMMFでの設定が一般的な通貨とする
- 時価が取得価額の+10%以上となった時は益出しを検討しなければならない
- 時価が取得価額の-20%以上となった時は損切りを検討しなければならない

3. 2009～2010年度運用計画(案)

(1) ポートフォリオ策定の考え方

-取得価額ベースで元本確保型債券を全体の3/4、他の債券を1/4を目安とするポートフォリオを基本とし、柔軟な運用を図る

元本確保型でない商品を全て損切りした場合、その穴埋めに2年間の運用収益を全てあてるリスクを負う

-元本確保型債券は、日本国債、その他の国内債券と、仕組債で構成する

-仕組債を除いた債券で、最長10年のラダー運用を志向するポートフォリオとする

<参考1> 2010年3月12日時点の2009～10年度運用対象(原資)資産

運用対象内訳	運用対象金額内訳	備考
2008年度運用原資執行残	97,837,204	
2009年12月償還分	100,000,000	第2回三井住友海上火災保険
2009年度新規繰入れ分	21,261,909	
計	219,099,113	

<参考2> 上記運用対象資産の投資(案)

運用/債券区分	運用期間	購入予算額	備考
国内債券	2年	100,000,000	
外国債券	4年	100,000,000	通貨はAUDを想定
銀行預金		19,099,113	10年度は償還が無いいため、繰替運用に備え流動化
計		219,099,113	

(2) 運用に関する事務手続等

-投資開始時期は3月12日(金)第77回理事会にて承認後速やかに開始する

但し、国内債券については“繰替運用”実施の場合、その原資とし、資金の繰戻しを行う6月以降の運用開始となる

-運用する債券は既に運用債券を購入している国内の証券会社3社より選択し、購入する

4. 運用体制

-運用に関わる事務は総務部で主管する

-各売買の判断は、資産運用委員会が行う

以上